

1977年以前出土の木簡



(奈良)

調査地は平城京跡左京二条二坊十坪の西北隅にあたり、法華寺阿弥陀浄土院推定地に含まれる。阿弥陀浄

- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代、平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

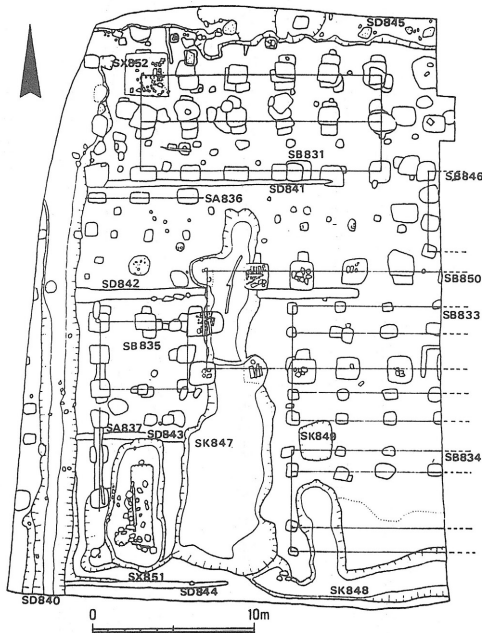
- 1 所在地 奈良市法華寺町
- 2 調査期間 平城宮跡第八〇次発掘調査 一九七二年(昭47) 一月～二月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 坪井清足

一九七七年以前出土の木簡(二一)

奈良・平城京跡左京二条二坊十坪

へいじょうきょう

土院は光明皇太后の発願により、法華寺の西南隅に建立された寺で、天平宝字三年(七五九)に造営が開始され、彼女の死後の同四年一月に完成した。調査区の東南隅から約二〇mの所には、阿弥陀浄



遺構図

土院の庭の石と伝える花崗岩が水田中に立つ。調査面積は九六〇㎡。

調査区内では奈良時代の建物七棟・溝四条・柵二条、それに平安時代以降の土坑三基・溝二条などを検出した。奈良時代の遺構はA・B二期に分けられる。A期は東西棟の掘立柱建物四棟、溝四条、B期は東西棟掘立柱建物三棟（うち一棟は後に礎石建物に建て替える）などがある。A期は阿弥陀浄土院造営以前、B期は造営以後とみられる。

木簡は五点出土したが、うち一点(1)は調査に先立ち、発掘区北方約二〇mの地点で、調査用電柱を埋設した際に出土したものである。遺構の性格は不明だが、平城宮との間を走る東二坊坊間大路の東側溝にあたるかと推測されている。(2)は西辺の径約三〇cmの小土坑から、(3)は調査区中央にあり、長さ二二m最大幅五m、深さ〇・三〇・六mの南北に長い平安時代の土坑から出土した。

### 8 木簡の積文・内容

東二坊坊間大路東側溝

(1) 「坤宮官縫殿出米參斗 右薪買」

・ 遣如件 五月廿八日舍人池後小東人」 227×26×4 011\*

### 小土坑

(2) [會會會會會會カ] [會會カ]  
[會會會會會會カ] [會會會會會會カ]

(196)×(11)×2 081

### 土坑

(3) 十九本

(1) 「坤宮官」は天平宝字二年(七五八)八月に、藤原仲麻呂の主導で官名を改めたときに、光明皇太后の紫微中台を改称したものである。同四年六月の皇太后の没後まもなく廢止されたとみられる。

### 9 関係文献

奈良国立文化財研究所『昭和四七年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報(二)』(一九七三年)

同『奈良国立文化財研究所年報一九七三年』(一九七三年)

同『平城宮発掘調査出土木簡概報』九(一九七三年)(館野和巳)